

午後 試験

問 1

出題趣旨

企業では、事業戦略に基づいて、より具体的な事業施策を策定する。IT ストラテジストは、事業施策の背景や目的を十分理解した上で事業施策の実現に対して適切な個別情報システム化構想を立案できることが重要である。また、個別情報システム化構想の投資効果を高めるために、情報システムの構築方法についても様々な検討や工夫を加えることも重要である。

本問は、事業施策に対応した個別情報システム化構想の立案に当たって検討した仕組みと、投資効果を高めるための情報システムの構築方法について、具体的に論述することを求めている。論述を通じて、IT ストラテジストに必要な構想力、企画力、問題発見力などを評価する。

問 2

出題趣旨

システム要件どおりに情報システムを導入したが、活用が進まず、導入の目的が達成できない場合がある。このような場合、利用者の利用実態や管理者の指導状況を調査し、活用が進まないことの原因を分析し、情報システム活用のための対策を検討しなければならない。多くの場合、原因は幾つかあり、それらの間に関連があったり、隠れた原因があったりするので、真の原因を分析し、対策を検討することが重要である。

本問は、情報システムの活用が進まない真の原因を分析し、有効な対策を検討すること、さらに実行手順・対象範囲・期間・体制などからなる促進策について、具体的に論述することを求めている。論述を通じて、IT ストラテジストに必要な問題分析力、企画力、行動力などを評価する。

問 3

出題趣旨

組込み製品の企画を作成し、開発をしているとき、何らかの事象が発生し、当初の企画を変更しなければならないことがある。変更した企画案は、製品にもたせるべき機能及び特徴、製品戦略、製品のライフサイクルなどの組込み製品の企画の基本的なコンセプトに影響しないことが重要である。そのためには、発生した事象に対して、最適な方策を立案することが重要である。

本問は、開発工程の遅延を題材として、企画を変更するときに、どのような点について検討して、どのような方策を立案し、どれを最適な案としたか、そして、採用した変更案をどのように評価しているかについて具体的に論述することを求めている。論述を通じて、組込みシステムのストラテジストに必要な問題分析力、企画力などを評価する。